

富士通 SPARC M10-1 における
「UDA-160e-QU(USB)」DAT160 ドライブ

動作検証報告書

2014 年 6 月 9 日

株式会社ユニテックス

プロダクトサポート部

文書番号 : UNT-00302

Rev	更新日	変更概要
A	2014年5月22日	・新規作成
B	2014年6月3日	・システムバックアップ/リストア検証を概要に追加 ・DVDドライブを使用製品、構成図に追加 ・Solaris10 1/13の項目を追加
C	2014年6月9日	・タイトル, OSの表記を修正

1. 概要

富士通 SPARC M10-1 の Oracle Solaris11.1、Oracle Solaris10 1/13 環境において、UDA-160e-QU(USB) DATドライブを使用して OS 標準コマンドによるテープの I/O、テープ操作が正常に行えることを確認する。

富士通 SPARC M10-1 の Oracle Solaris11.1 環境において、UDA-160e-QU(USB) DATドライブを使用して OS 標準コマンドによるバックアップを取得した後、DVD ブートからのリストアが正常に行えることを確認する。

2. 検証場所

株式会社ユニテックス 町田事業所

3. 検証期間

2014 年 4 月 17 日～5 月 12 日

4. 検証環境

【使用サーバ】

表 1 使用サーバ

コンピュータ	SPARC M10-1
CPU	SPARC64-X 2800 MHz
メモリ	64GB
OS	Oracle Solaris11.1 (以下 Solaris11 とする) Oracle Solaris10 1/13 (以下 Solaris10 とする)
HBA	標準 USB2.0 ポート

【使用製品】

表 2 使用製品

型名	構成品
	分類
UDA-160e-QU(USB)	DATドライブ
スーパーマルチドライブ FMV-NSM52	DVDドライブ

【使用テープ】

表 3 使用テープ

テープ種	容量	圧縮時容量
DAT160	80GB	160GB

【構成図】

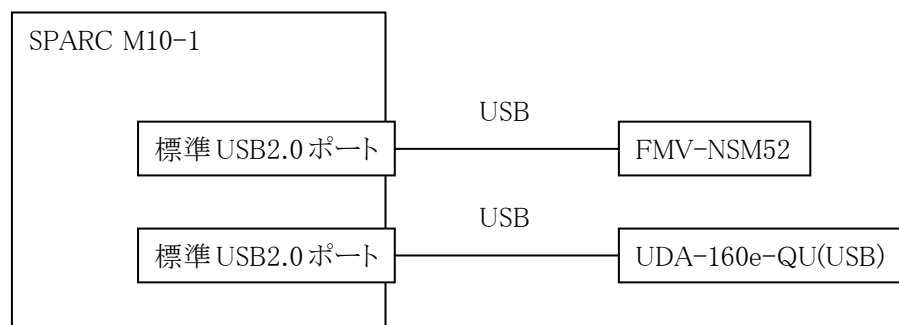


図 1 検証環境

5. 検証内容

5.1. システムバックアップ/リストア

5.1.1. zfs コマンドによるバックアップ/リストア

5.2. 一般データの標準コマンドによる I/O

5.2.1. ddコマンド

5.2.2. tar コマンド

5.2.3. cpio コマンド

5.3. 標準コマンドによるテープ操作

5.3.1. mt コマンド

6. 検証結果

6.1. システムバックアップ/リストア

6.1.1. zfs コマンドによるバックアップ/リストア

Solaris11 で zfs コマンドによるバックアップと DVD ブートからのリストアが正常に行え、リストアされたシステムが起動できることを確認した。

装置	メディア	ストレージプール	バックアップ時間	書込速度	リストア時間	読込速度
UDA-160e-QU(USB)	DAT160	約 5.1GB	16 分 59 秒	5.14MB/s	16 分 31 秒	5.28MB/s

6.2. 一般データの標準コマンドによる I/O

6.2.1. ddコマンド

Solaris11、Solaris10 で dd コマンドによるデータ I/O が正常に行えることを確認した。

Solaris	装置	メディア	データ	ブロック長	書込時間	書込速度	読込時間	読込速度
11	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	5GB	64kB	13 分 48 秒	6.48MB/s	13 分 45 秒	6.51MB/s
10	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	5GB	64kB	14 分 3 秒	6.37MB/s	13 分 45 秒	6.51MB/s

6.2.2. tar コマンド

Solaris11、Solaris10 で tar コマンドによるデータ I/O が正常に行えることを確認した。

Solaris	装置	メディア	データ	ブロック長	書込時間	書込速度	読込時間	読込速度
11	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	5GB	64kB	13 分 47 秒	6.49MB/s	13 分 45 秒	6.51MB/s
11	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	1GB	10kB	2 分 51 秒	6.28MB/s	2 分 50 秒	6.32MB/s
10	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	5GB	64kB	13 分 48 秒	6.48MB/s	13 分 45 秒	6.51MB/s
10	UDA-160e-QU(USB)	DAT160	1GB	10kB	2 分 52 秒	6.24MB/s	2 分 50 秒	6.32MB/s

6.2.3. cpio コマンド

Solaris11 で cpio コマンドによるデータ I/O が正常に行えることを確認した。

装置	メディア	データ	ブロック長	書込時間	書込速度	読込時間	読込速度
UDA-160e-QU(USB)	DAT160	1GB	8kB	13 分 48 秒	1.30MB/s	14 分 00 秒	1.28MB/s

※ Solaris10 は未実施です。

6.3. 標準コマンドによるテープ操作

6.3.1. mt コマンド

Solaris11、Solaris10 で mt コマンドによるテープ操作が正常に行えることを確認した。

7. 結論

富士通 SPARC M10-1 の Oracle Solaris11.1、Oracle Solaris10 1/13 環境において、UDA-160e-QU(USB) DATドライブを使用して OS 標準コマンドによるテープの I/O、テープ操作が正常に行えることを確認した。

富士通 SPARC M10-1 の Oracle Solaris11.1 環境において、UDA-160e-QU(USB) DATドライブを使用して OS 標準コマンドによるバックアップを取得した後、DVD ブートからのリストアが正常に行えることを確認した。

8. お問い合わせ先

株式会社ユニテックス

Tel : 042-710-4630

Fax : 042-710-4660

E-Mail : sales@unitex.co.jp

Web サイト : www.unitex.co.jp

－以上－